

スリランカの仏蹟を訪ねて

星 莖 由 尚

4 月の中旬にスリランカを旅してきました。私は、寺院や遺跡などを訪ねて歩くのが好きで、国内でも旅行の機会があれば、必ず寺社を訪ねますが、今回友人と語らってスリランカの仏蹟を見てきました。

スリランカという国

スリランカは、正式国名をスリランカ民主社会主義共和国と言い、面積約 65,000 km² で北海道の 8 割です。人口は約 2,000 万人、約 7 割が仏教徒です。民族構成は、シンハラ人が 7 割、タミル人が 2 割、ムーア人が 8% の割合です。シンハラ人が仏教徒、タミル人がヒンズー教徒、ムーア人がイスラム教徒とすることができます。日本との時差は 3 時間半、約 9 時間の飛行でコロomboの近郊ニゴンボにあるバンダラナイケ国際空港に着陸します。空港名は、元首相ソロモン・バンダラナイケに因み、その妻シリマヴォ・バンダラナイケは、夫が暗殺された後、世界初の女性首相となった人です。また、その娘チャンドリカ・クマーラトゥンガは、首相と第 5 代大統領を務め、世界初の母娘首相となりました。元の国名セイロンから 1972 年にシリマヴォ・バンダラナイケ首相が改名しました。



スリランカは、紀元前 4 世紀からの歴史を持ち、仏教国として栄えてきました。仏教遺跡の世界遺産が 5 箇所あり、それらを巡ってきました。そのいくつかを紹介します。



イスラムニヤ精舎

アヌラーダプラ

スリランカの最も古い都であるアヌラーダプラは、紀元前 380 年にパンドゥカーバヤ王が首都とした地です。紀元前 3 世紀、デーワーナンピヤ・ティッサ王の時代に仏教が伝えられたとされています。ここには初期の仏教遺跡がたくさんあります。いくつか紹介します。

(イスラムニヤ精舎)

小さな岩山の浅い洞窟を利用して作られた御堂に極彩色の釈迦涅槃像が安置されています。ここには、寺院北側の王宮庭園で発見された伝説の「恋人の像」と「王族の像」の浮き彫りがあります。「恋人の像」は、5 世紀の作と言われ、紀元前 2 世紀に身分を捨てて低いカーストの娘マーラと結婚したサーリヤ王子の二人の像とされています。



王族の像



恋人の碑

す。「王族の像」は、サーリヤ王子とその父ドウッタガーマニー王、その妻マーラを表したもので、マーラは端の方に小さく彫られています。

(ルワンウェリ・サーヤ大塔)

見上げるように聳え立つ白亜の大塔です。紀元前 2 世紀、ドウッタガーマニー王が建設を開始し、その息子サッターティッサ王が完成させました。塔を廻って多数の像の彫刻が塔を護っています。



ルワンウェリ・サーヤ大塔

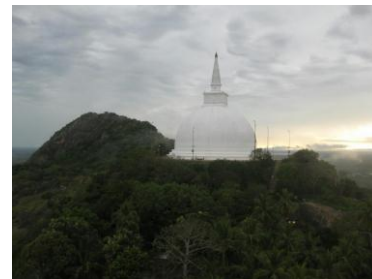
(ミヒンタレー)

ミヒンタレーはアヌラーダプラから東へ約 30 分にある岩山の遺跡です。紀元前 247 年 6 月、鹿に化身した山の神デーヴァがこの地に鹿狩りにやってきたデーワナンピヤ・ティッサ王を布教のためこの地を訪れていたアショーカ王の息子マヒンダに会わせ、仏教に帰依させたと言われています。王は感謝し、68 の石窟と僧院をマヒンダに贈り、マヒンダに因み、この地をミヒンタレーと言うようになったといわれています。



ミヒンタレーのカレーの石櫃

ミヒンタレーは、大きな岩山の中腹に遺跡が点在しています。坂道の階段を登っていくと、僧院跡、食堂跡、会議場跡などがあり、土台の石柱や僧院の規則などを古代シンハラ語で刻印した石盤があります。また、スリランカ最古のシンハラ文字と言われる 1 世紀の岩に刻んだ線刻文字もみられます。食堂跡には、米やカレーの給食のための巨大な石櫃がありました。階段を登りきると広場になり、アムバスタレー大塔があり、ここが王とマヒンダが会った場所で、仏教伝来の地です。



アムバスタレー大塔

背後が岩山の頂上となっており、そこに登りました。寺院の中であるからもちろん裸足です。結構急で陰しく、下を見るとほぼ垂直に落ちているところもあり、手すりがあるがかなり高度感があります。頂上は特に何もありませんが、この岩山は独立しているので眺めはすばらしく、遙か下に緑に覆われた平原や池沼が見えました。帰りには、入場券売り場で寺院へのお布施を募っており、喜捨したところ、拡声器を使い大きな声で名前を読み上げてくれました。



ポロンナルワの宮殿

ポロンナルワ

ポロンナルワは 10～12 世紀にシンハラ王朝の首都となっていたところです。広い遺跡公園となっており、遺跡が密集しています。

(宮殿跡)

宮殿は、嘗ては 7 階建てでしたが、3 階までの壁の一部が廃墟として残っています。煉瓦を積み上げ、漆喰を厚く塗っています。漆喰の一部が残り、華麗な装飾の痕もわずかに残っていてさぞかし壮麗な宮殿であったらろうと思われれます。部屋数は 50 あったと言われています。閣議場があり、石柱が玉座の両側に 9 本ずつ建っており、それぞれ大



閣議場

臣の座る位置を示したものであるといわれています。

（「聖なる四角形」地区）

その先にはポロンナルワの中核的仏教寺院遺跡が点在する「聖なる四角形 (sacred quadrangle)」地区があります。



ラマー・マンダバヤ



アタダーゲ

ラマー・マンダバヤは、王が僧

の読経を聞いた建物で、蓮の茎を象った石柱が並んでおり、石柱の先は蓮の蕾の形をしています。アタダーゲは仏歯を納めていた寺院跡です。11世紀にウィジャヤバーフ1世により建立されました。4世紀にインドよりもたらされた仏歯がこの建物に納められていました。煉瓦を積み上げた土台と多数の石柱を残すのみです。往時は木造の屋根に覆われていたと言われてい

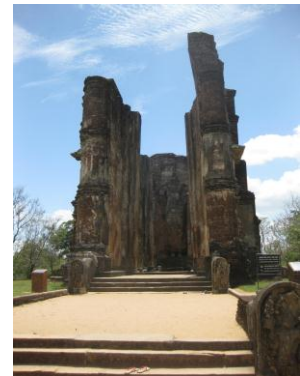


ワタダーゲ

まれています。ワタダーゲは、大きな仏塔の遺跡です。仏塔の屋根は崩壊し、壁も一部が崩れ去っています。内部は、中心部に仏塔があり、その四方に釈迦如来の仏像が安置されています。ワタダーゲは、7世紀頃に建造されたとされています。

（ガル・ヴィハーラ）

ポロンナルワの遺跡の中心「聖なる四角形」を見終わり、ランカティラカと言う聳え立つ寺院を見ました。13世紀にバラークラマ・バーフ3世により建立された寺院で、高さが17.5mほどあります。天井はなく、煉瓦を積み上げ漆喰を塗った壁がそそり立っています。建物内の奥には煉瓦を積み上げた巨大な仏像が外からもよく見えます。仏像の肩から上は欠けていますが、漆喰も残り、建物に残った漆喰には、描かれた壁画もわずかに残っています。外壁には漆喰の巨大な浮き彫りも残っています。



ランカティラカ

ガル・ヴィハーラは、向かって右から涅槃像、立像、坐像の3体の大きな石仏が並んでいます。坐像は、高さ4.6m、瞑想している釈迦です。中央の立像は、人生の辛さを哀れむ悟りを開いた釈迦の姿とされ、一方、釈迦の涅槃の悲しみに暮れている釈迦の弟子アーナンダの像であるという説もあるようです。右の涅槃像は、目をつむり衣が優美な曲線で線刻された誠に優雅静謐な像でした。



ガル・ヴィハーラ

ダンブッラ

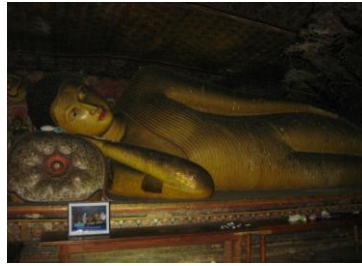
ポロンナルワから1時間ほどのダンブッラには、小高い岩山の上に石窟寺院があり、紀元前にシンハラ王朝のワガラムバーフ王によってつくられました。アヌダーラプラをタミル人に追われ、王権奪回をこの地で企んでいた王は、



ダンブッラ石窟寺院

タミル人を破り復権したことを感謝し、この寺院を建てたと言われてい
ます。

石窟は、5つあり、向かって右の第1窟から左へ第5窟まであり、順に新しくなり、第5窟は1915年に完成しました。第1窟は、最古の石窟で、大きな涅槃像があり、黄金色に染められています。足の裏は赤く、花模様が描かれています。第2窟は、最大の石窟で、幅52m、奥行き25m、高さ最大6mです。56体の仏像が安置されており、壁や天井いっぱいに仏陀の生涯、スリランカの歴史などの壁画が描かれています。



ダンブッラ第1窟の涅槃像



第2窟の壁画

第2窟は、最大の石窟で、幅52m、奥行き25m、高さ最大6mです。56体の仏像が安置されており、壁や天井いっぱいに仏陀の生涯、スリランカの歴史などの壁画が描かれています。

シーギリアロック

シーギリアロックは、古代から僧の修行場でしたが、5世紀の後半、弟を追放し、父を殺した狂気王カーシャパが築いた宮殿です。カーシャパは、弟モッガラナに滅ばされますが、モッガラナは王宮を仏教僧に寄進し、都をアヌラダープラに戻しました。

日本の協力で2009年に開設した博物館があり、中には、シーギリアロックの模型や、壁画の複製、発掘された遺物などが展示されています。博物館見学後、いよいよシーギリアロックに登ります。シーギリアは、周囲を堀で囲まれており。堀を渡ると、王宮の庭園が広がっています。シーギリアロックの中腹の岩壁に有名な美女のフレスコ画があります。美女のフレスコ画は、すばらしい色彩で18人の女性が描かれています。5世紀に描かれたものです。これこそ今回のスリランカ旅行での圧巻でした。

描かれた美女の絵が反対側の壁面に反射して写ったと言われている鏡の回廊を行き、階段を登り広場に出ると煉瓦と漆喰で固めた大きなライオンの爪があり、そこから頂上の宮殿へと登っていきます。頂上は広く、王宮跡、沐浴場などの遺跡が土台を残して頂上全体に広がっています

このほか、シンハラ王朝最後の都となったキャンディを訪れ、4世紀にもたらされ、王朝の盛衰とともに数奇な運命をたどった仏歯が納められている仏歯寺、16世紀からのポルトガル、オランダ、イギリスの植民地支配のあとを今に残すゴールなどを見て回りました。

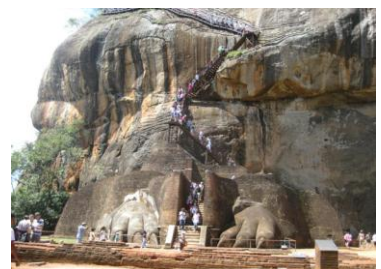
スリランカは、緑にしたたる清潔な国でした。植民地支配を行った列強の侵略にも拘わらず仏教の伝統を守る誇り高い国であるとの思いを強くもってスリランカを後にしました。



シーギリアロック



シーギリアロックのフレスコ画



ライオンの爪